参加者募集

2月26日、福岡市で重粒子線フォーラム開催！

がん治療の新たな選択肢として期待されている重粒子線がん治療と、その治療を提供するサガハイマットについて理解を深めてもらおうと、福岡市で重粒子線フォーラムが開催されます。入場は無料です。

入場無料
定員：先着600名（参加登録が必要）

サガハイマット・TNC・SAGATV医療フォーラム
「重粒子線がん治療を語る」

とき　2018年2月26日（月）18:30〜20:30
ところ　ＪＲ九州ホール（ＪＲ博多シティ９階＝福岡市博多区）

❶「サガハイマットの近況報告」
九州国際重粒子線がん治療センター センター長 **塩山善之**

❷基調講演「放射線治療のススメ」
東京大学医学部附属病院放射線科准教授 **中川恵一氏**

❸パネルディスカッション
【パネリスト】
サガハイマット治療体験者（元プロ野球選手）　**今井雄太郎氏**
九州国際重粒子線がん治療センター センター長　**塩山善之**
九州国際重粒子線がん治療センター 主任医長　**篠藤 誠**

【参加登録方法】
WEBまたはFAXでお申し込みください。
WEB　http://www.sagatv.co.jp/
FAX　0952（29）2868
（住所、氏名、連絡先、参加人数を記入）

【問い合わせ】
サガテレビ　☎0952（23）9118
（平日9:30〜17:30）

スタッフ紹介

サガハイマットのスタッフを紹介します！

主任看護師
吉原 静香さん

主任看護師
八尋 美智子さん

●寄附をお願いします●

佐賀国際重粒子線がん治療財団では、引き続き皆さんからの寄附を募集しています。県内、ひいては九州のがん医療の充実につながるサガハイマットへのご支援をよろしくお願いします。

なお、当財団へご寄附をいただいた方には、特定公益増進法人に対する寄附として、税制上の優遇措置があります。詳しくは、当財団までお問い合わせください。

サガハイマット通信 vol.19
（平成30年1月号）

【お問い合わせ】
発　行　公益財団法人 佐賀国際重粒子線がん治療財団　（担当）本村
所在地　〒841-0071 佐賀県鳥栖市原古賀町3049番地
ＴＥＬ　0942(81)1897　　ＦＡＸ　0942(81)1905
Ｈ　Ｐ　https://www.saga-himat.jp/

サガハイマット通信

Vol.19
（平成30年1月号）

サガハイマット治療者数が2,400人を超えました

公益財団法人
佐賀国際重粒子線がん治療財団
理事長 **中川原 章**

新年ごあいさつ

あけましておめでとうございます。
サガハイマットは平成25年8月27日に治療を開始して昨年末までに治療患者数が2,400人を超えました。改めてサガハイマットに対する期待の高さを実感するとともに、これまで開設、運営にご協力いただいた皆様のお陰と深く感謝申し上げます。
今年は、最新の照射装置を備えた3室目となる治療室Cが稼動をはじめますので、より多くの患者さんへスムーズな治療が提供できるようになります。
これからも患者さんに安心して治療を受けていただけるよう職員一丸となって取り組んで参りますので、今後ともよろしくお願い致します。

SAGA HIMAT
SAGA Heavy Ion Medical Accelerator in Tosu
サガハイマットは、九州国際重粒子線がん治療センターの愛称です

サガハイマットの受診に関する相談窓口
電　話　0942-50-8812
（受付時間：平日の9時〜12時、13時〜17時）
メール　saga-himat@saga-himat.jp

江口先生
×
塩山センター長
対談

九州国際重粒子線がん治療センター(愛称:サガハイマット)

「重粒子線治療と肝がん」

江口 有一郎

【略歴】えぐち・ゆういちろう／日本肝臓学会専門医・医学博士。佐賀大学医学部附属病院肝疾患センター特任教授・センター長。佐賀医科大学医学部を卒業後、同大学内科学講座などを経て肝臓など内科の専門医として携わる。国立国際医療研究センター・肝炎情報センター長補佐も併任。

塩山 善之

【略歴】しおやま・よしゆき／医学博士。九州国際重粒子線がん治療センター副センター長を経て、2016年4月から同センター長。九州大学医学部を卒業後、同大学の放射線科に入局。高精度放射線治療、粒子線治療などでがん治療に携わってきた。前九州大学大学院医学研究院・重粒子線がん治療学講座教授。

佐賀県は人口10万人当たりの肝がん(肝臓がん)の死亡率が18年連続全国ワースト1位という状況です。肝がんの最大の原因であるC型ウイルス性肝炎撲滅に向け、佐賀県では検査費の助成など率先して取り組んでいます。今回は肝がんの現状や治療法などを、塩山善之サガハイマットセンター長と、サガハイマットの部位別治療検討班員である江口有一郎佐賀大学医学部附属病院特任教授・肝疾患センター長に語っていただきました。

肝がんの現状と重粒子線治療の有効性

▼肝臓は「沈黙の臓器」で、初期の肝がんは自覚症状がないとも言われています。肝がんについて教えてください。

江口　肝がんにはいくつか種類がありますが、佐賀県で問題になっているのは肝細胞がんです。原因は7割がC型肝炎ウイルス、1～2割がB型肝炎、残りはアルコールや糖尿病が原因の脂肪肝によるものです。肝臓の中にC型肝炎ウイルスが入ると、10～ 20年にわたって肝臓を壊し続け、がん細胞を引き起こす原因になります。60～70歳ぐらいの時に発症し、男性に多いのが特徴です。

▼肝がんを見つけるための検査方法は。

塩山　通常の検査では、エコーが簡単で肝臓の中がよく見えて有効です。再検査などで詳しく知りたい場合はCTやMRIの検査や組織検査を、また血液で分かる腫瘍マーカーは治療後の経過観察で参考にします。

▼県内の現状と、改善に向けた取り組みを教えてください。

江口　一番の問題はC型肝炎ウイルスを原因とするC型慢性肝炎からの発がんなので、まずはC型肝炎ウイルスに感染しているかどうかの検査を受けることが重要です。佐賀県では検査に補助を出し、誰でも初回は無料で受けられます。県民すべてが受診すれば、肝がんのハイリスクグループを絞ることができ、対策が立てやすくなります。「見つかったら恐い」と検査に消極的な人もいるようですが、仮にウイルスに感染していても、負担が少ない治療でウイルスをほとんど排除できます。特に、佐賀県は肝臓に関しては(※)「佐賀方式」と言われるほど制度が整い、全国でも注目されています。

▼肝がんにはどんな治療法がありますか。

江口　肝細胞がんが疑われたら腫瘍を生検して診る、またはCTやMRIなど画像を撮って調べます。がんと分かれば、大きさや進行具合と肝臓の弱り具合を見て治療方針を決めます。肝臓は胃などの臓器と違い、全摘出ができないので、温存を前提に治療を進めます。肝臓の働きが良好なら、手術でがんを切除します。切除が難しい場合、患部に針を刺してラジオ波で焼く局所治療や、純度の高いエタノールを注入してがんを固めてから切除する方法もあります。局所治療が困難な場合、肝臓の中の動脈に管を入れて遮断する肝動脈塞栓術を行います。それも不可能なら、がん細胞が増えるのを抑え、進行を食い止める分子標的薬による化学療法、それも不可能なら肝臓移植と段階的に「肝癌診療ガイドライン」に沿った治療の流れがあり、標準化されています。サガハイマットが行っている重粒子線治療も有効な局所治療の一つとして記載されています。

▼肝がんの重粒子線治療はどのように行われますか。

塩山　肝機能が不良で手術が困難な場合や、がんが大きくラジオ波などの治療が困難な場合でも、重粒子線治療は有効な治療の選択肢となり得ます。初診から治療開始までに要する標準的な期間は約1カ月ですが、病状によっては2～3週間で開始することもあります。照射回数はがんの大きさや場所によりますが、大きさが3センチ以下なら2回、3センチ以上なら4回照射します。ただし、消化管や大きな血管、胆管に近いと12回の照射になります。

サガハイマットの昨年12月末現在の治療実績は全体で2430人。うち肝がんの患者さんは268人で、75歳以上の方が多いことから、体への負担が少ない重粒子線治療は有力な選択肢になっています。

▼サガハイマットの「部位別治療検討班」について教えてください。

塩山　サガハイマットの開院前から医療連携の一環として、がんの部位別に病院や診療科の垣根を超えた外部の先生と定期的に治療法の検討を行っているものです。例えば、肝がんの場合、江口先生をはじめ、肝臓内科や外科の先生方に参加していただき、個々の患者さんの治療適応の相談や治療方針などを検討いただいています。

▼重粒子線治療への印象はいかがですか。

江口　実際に私の患者さんをサガハイマットに紹介して、その治療の様子を見学させてもらいましたが、患者さんは痛くも何ともなく落ち着いた雰囲気で治療ができるので安心感がありました。外来でよいし、副作用も少なく治療効果が高いので、治療の手応えを感じています。

「肝癌診療ガイドライン」では、今のところ重粒子線治療は、標準治療ではないものの、有効な治療の一つとして取り上げられています。今後、治療実績を積み上げていけば、標準治療の一つとなる可能性は高いと思います。

▼読者の方へのメッセージをお願いします。

塩山　現在、重粒子線治療では骨軟部腫瘍が公的医療保険の対象となっています。今後は肝がんを含む多くの部位が公的医療保険に適用されるよう、他の重粒子線治療施設と連携して治療実績を積み上げていきたいと思います。

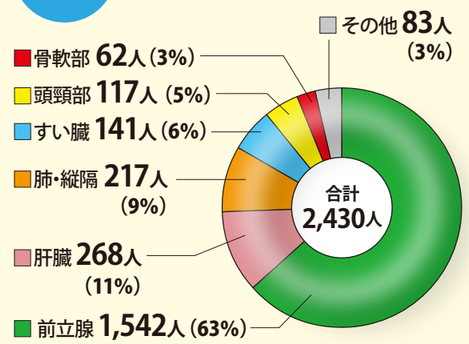
江口　肝炎ウイルス検査は、1度受けてウイルスがいないことが分れば、基本的に一生受ける必要はありません。もし陽性反応が出ても、適切な治療があります。一番よくないのは健康への無関心です。肝炎ウイルス検査をきっかけに、自分の健康は自分が守るという意識を持ってほしいと思います。

データで見るサガハイマット

部位別患者数

(2017年12月末日現在)

※その他は、直腸(骨盤内再発)、食道、腎臓など



※「佐賀方式」とは
受検(肝炎ウイルス検査を受けること)、受診(ウイルス検査の陽性者が精密検査を受けること)、受療(適切な抗ウイルス治療を受けること)の3ステップを円滑に受けられる体制を構築し、その体制を支援する肝炎医療コーディネーターの養成・活用による肝疾患対策の仕組み。